

わかる授業の工夫と授業実践

～ 基礎学力の定着と考える力の育成 ～

I 主題設定の理由

激しく変化する社会の中で自己実現を目指し、たくましく生き抜いていくため、基礎基本の確実な定着や考える力といった確かな学力、さらには生きる力の育成が求められている。

学習習慣が未確立な生徒、意欲に欠ける生徒の増加や学力の二極化傾向が問われる中、「わかる授業」、個に応じた指導を創造し展開していくことで、学びへの意欲が高まり、基礎基本の定着が図られると考える。さらに、とかく困難なことに対して目を背けがちな生徒たちに対し、考える力を育てることに焦点をあてた指導を行うことで、課題にねばり強く対処していく態度が育つであろうと考える。

教材・教具の開発など指導方法の工夫・改善、習熟の程度に応じた学習形態、また評価方法などの研究・実践を行い、上記主題に迫っていきたいと考える。

II 研究の内容

1 具体的な研究の内容と方法

- (1) 統一授業研の授業の参観を通し、基礎学力の定着や考える力の育成を目指した指導方法などを検討する。
- (2) 「目標に準拠した評価」に基づく、観点別評価による単元末評価問題の作成を学年ごとに共同で行う。作成過程を通し、問題作成上の留意点や作成技術の向上等の研究を深める。さらに、過去に作成された単元末評価問題を各校で実施し、結果の考察を行う。
- (3) 個に応じた指導方法など情報交換を含めて研究を重ねる。

III 成果と課題

1 授業実践

平成 19 年 1 月 31 日 塩山中学校 1 年 授業者 長坂 俊彦 教諭

題材 平面図形(課題学習「正方形の中の面積」)

目標 ・大きさの違う正方形を重ねた図において、面積の差を求めることを通して、その方法について見通しをたてて考え、自分なりの方法で解決へと導くことができる。

・1つの方法にとどまらず、さらに他の方法がないか考えることにより、異なった新しい方法を追求する態度をもつ。

・他の解決方法についてそのよさに気づき、よりよい方法をさまざまな視点から考える。

本部会のサブテーマ「考える力の育成」へ迫る授業であり、生徒の多様な考えを引き出すことができるものであった。

研究会では、個に応じた指導体制として少人数学習(習熟度別)が盛んであるが個に対応しつつ、多様な考えを出しあったり、認め合ったりし、お互いを高めていく集団での学習のよさが再確認された。

課題としては、部会としての共同授業案の作成ができず、授業者に大きな負担をかけてしまった。見通しをもち、授業案を検討する機会を設定していきたい。

2 単元末評価問題の作成と実施及び考察

(1)「比例・反比例」(1学年)、「連立方程式」(2学年)、「平方根」(3学年)の評価問題を共同で作成することができた。また、その過程を通して評価規準をより明確に捉えることなどもできた。

(2)昨年度までに作成した評価問題を複数校で使用することができた。また、「正負の数」の評価問題については、実施結果を部会の中で考察することができ、今後の指導への活用が期待される。他の単元についても複数校で実施したものもあったが、結果を考察する余裕がなく課題として残る。さらに、考察をスムーズに行うため結果の処理については、統一した形を検討する必要があると感じる。

今年度は、評価問題の作成と実施結果の考察・検討を中心に研究を進めてきた。結果をさらに分析し、一斉に指導できるもの、個に応じた指導(グループ・個人)が必要なものなどと明らかにし、次単元や次年度での指導の際に生かしていくように努めたい。わかる→できる→楽しい→学ぶ意欲へとつなげ、基礎・基本の確実な定着が図られるように実践を積み重ねていきたい。

(部長 奥山 邦次)